

2012年度 土壤物理学大会

日時：2012年11月2日（金） 9：00～17：00

場所：とちぎプラザ（〒080-0014 帯広市西4条南13丁目 電話：0155-22-7890）

大集会室（シンポジウム・総会）・アトリウム（ポスター発表・企業展示）

参加費：2,000円

1. 第54回シンポジウム 13：00～17：00（大集会室）

「畑地の土壤有機物動態と土づくり」

Soil organic matter dynamics and soil fertility improvement in upland field

有機物は、土壤をその母材である岩石風化物と明確に区別するもの、すなわち土壤を完成させるもの（Russell, 1957）と言われている。土壤有機物の量や性質は土壤中の物理的・化学的・生物的諸反応の多くに関与することにより、農耕地の作物生産性に強く影響する。一方、地球規模で見ると、土壤有機物に含まれる炭素量は植物バイオマスや大気中炭素量の2～3倍にも達することから、土壤有機物の動態（分解、蓄積）は地球温暖化にも大きく影響する。近年は、温暖化緩和策としての土壤炭素隔離の重要性が指摘されており、この観点からも土壤有機物の動態や機能の理解が強く求められている。

以上の背景から、今回のシンポジウムでは、5名の演者より、土壤有機物の機能とそれを活用した土づくり、有機物管理と作物生産の関係、基盤整備時の土壤有機物の取り扱い、に関して概論的にご紹介いただいた後、大規模畑作地帯である十勝地域を対象に、土壤有機物動態の歴史的変遷と有機物資源の利用実態についてご講演いただき、畑土壤の有機物動態に関する理解を深めるとともに、有機物を活用した土づくりによる持続的な畑土壤管理のあり方を論議する。

1) 「土壤有機物の機能と有機物を活用した土づくり」 谷 昌幸 氏（帯広畜産大学）

2) 「有機物管理と作物生産」 竹内 晴信 氏（北海道立総合研究機構 中央農業試験場）

3) 「畑地の基盤整備と土壤有機物」 赤坂 浩 氏（北海道農政部農村振興局農村計画課）

4) 「十勝地域の多湿黒ボク土における土壤有機物動態」 関谷 長昭 氏（酪農学園大学）

5) 「十勝地域における有機物資源の利用実態」 岡崎 智哉 氏（十勝農業協同組合連合会）

2. ポスターセッション 9：15～11：00（アトリウム）

「土壤物理研究の最前線」 Challenges of soil physics

個人会員が土壤物理に関する、最新、最先端の研究成果をポスターセッション

形式で発表するプログラムです。皆様の積極的な参加を歓迎します。発表形式などの詳細については、[【ポスターセッション要領】](#)をご覧ください。
また申込に際しては、以下にある“[シンポジウム事前参加登録票](#)”および“[ポスターセッション登録票](#)”をご利用下さい。

3. 企業展示（アトリウム）

土壌の状態と変化を計測する技術の開発は、土壌物理学が貢献すべきテーマの一つです。そこで、土壌物理学会に協賛頂いている企業の方々、あるいは関係企業の方々に参加を呼びかけ、最新の計測機器やセンサなどを紹介して頂き、理論と実際の隙間を埋めるような土壌物理の計測技術に関する情報交換の場を提供いたします。実施方法については[【実施方法】](#)をご覧ください。

4. 情報交換会 18:00～（帯広市内）

情報交換会にてポスター賞の授与を行います。→ [【情報交換会のご案内】](#)

※ エクスカーション

大会翌日（11月3日）に、十勝地域の農業関連施設を見学するエクスカーションを予定しております。→ [【エクスカーションのご案内】](#)